

- 1 日時 11月○日(○)第○校時
 - 2 学年 第3学年○組
 - 3 単元 「はたらく人とわたしたちの暮らし」
 - 4 単元について
- 教材観

『小学校学習指導要領解説社会編』第3学年の内容(2)では、仕事の種類や工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉えて地域の人々の生活との関連を表現することや、消費者の願い、販売の仕方、他地域とのかかわりなどに着目して販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え表現することとなっている。本単元では、地域の数ある生産に関する仕事のうち、農作物を生産する農家の仕事を選択した。

本単元では、矢賀地区で農業を行っている飯田澄雄氏の活動を通して学習を進めていく。住宅地に囲まれた限られた農地で野菜の生産を行うためには、さまざまな工夫が必要になる。家族経営を行っている農家の場合、必要以上の農地があるとその維持・管理に多大な労力がかかり、経営的にはマイナスになってしまうため、ハウスと露地の栽培面積、栽培品目や年間の作付け回数などが考慮されている。また、固定資産税が非常に高い市街化区域の農業経営には、農地を転用して都市的利用を行うことで、農外収入が見込まれるため農地面積に余裕がある場合は、効率的な土地利用による不動産収入の確保が、農業の存続に大きく関与する場合がある。

また、飯田氏の野菜作りにおける特徴は、農薬を使わない無農薬野菜の栽培である。飯田氏の生産する農産物は、広島県が認証する「安心！広島ブランド」という特別栽培農産物に指定されている。「特別栽培農産物」とは、農薬や化学肥料を削減するなど一定の要件を満たして生産された農産物として県が認証したマークであり、飯田氏は農薬・化学肥料共に栽培期間中不使用で栽培を行っている。このことは、朝市などで商品を出品する際に掲示されており、消費者が安心して購入することにつながっている。無農薬野菜は通常の野菜と比べ大量生産が難しく、また販売価格も上がってしまうが、飯田氏は「安く大量に生産し、購入してもらうこと」よりも「より質のよいものを生産し、欲しいと思ってくれる消費者に購入してもらうこと」に重点を置いて生産を続けている。生産された野菜の具体的な流通先は、矢賀に設置されている直売所、居酒屋への直売、木曜出合い市という朝市である。通常の販売方法とは違うこれらの手段では、消費者と生産者とのかかわりという点で大きな違いが生まれてくる。生産者の顔が見える販売方法を行うことによって、消費者はより安心して食材を購入することができ、またその場で実際に調理方法や説明を聞くことなどによって、人と人との繋がりを生む場面にもなっている。本単元において矢賀ちしゃの生産を通して飯田氏の農業を学ぶことによって、子どもたちは現在の農家のあり方やその思いに気付き、自分たちが日ごろ食べている食材についても思いをめぐらせ社会との関わりについて思考を深めることができるのではないかと考える。

本単元で特に大きく取り上げる「矢賀ちしゃ」は、東区矢賀地区の伝統野菜である。昭和60年頃まで赤系の「かぎちしゃ」として生産されていたが、時代の流れと共にちしゃを食べることが少なくなったことや生産の難しさから栽培が減り、飯田氏の父である飯田森一氏が亡くなってからは種取りも中断されていた。飯田氏が栽培を再開しようと考えた際、種子は残されていなかったが、広島市農林業振興センター職員が広島県ジーンバンクに問い合わせたところ、広島県内の植物遺伝資源の探索と収集を行った際に森一氏が提供した矢賀ちしゃの種子が含まれていたことがわかり、ジーンバンクから種子を譲り受けたことで栽培を再開することができた。矢賀ちしゃの生産が再開された際、矢賀ちしゃを残していくことを目的として矢賀農家6世帯による矢賀ちしゃ生産組合が作られたが、種がとれなかったことや生産の難しさから販売のための生産を行う農家は減り、現在は飯田氏のみが販売のために生産している状況である。飯田氏は生産した矢賀ちしゃの販売を行っているが、利益を求めることが大きな目的ではなく「残していくこと」「広めていくこと」に焦点を置いた活動を行っている。また、矢賀ちしゃを広めるための取組として、東区役所と協働して園児・小学生を対象とした栽培体験を行っており、矢賀の子どもたちはこの体験を通して自分の住む地域に残る伝統的な野菜として矢賀ちしゃを知り、愛着を持つことができている。以上のことから、飯田氏の農業に関わる活動を取り上げることが、身近にある野菜を通して学習していく中で、仕事の内容について自分の生活と関連付けながら学習することにつながると考える。

○ 子どもの実態について

本学級の児童は、活発で素直な子どもが多く、さまざまな活動に意欲的に取り組むことができる。前期の社会科に関するアンケートでは、「社会科の学習は、大切だと思いますか。」という質問に対して93%の児童が肯定的な意見をしめしており、意欲的に社会科の学習に取り組もうとしている態度は、発問に対して自分の予想を考える場面や、調べ学習をする場面などで見ることができている。

一方で、「社会科の学習で『なぜだろう』『調べてみたい』と思うことがありますか。」「社会科の学習で、学習問題について自分の予想を立てることができていますか。」という問いに対しては肯定が60%、否定が40%となっており、社会科で扱う学習課題について受身になっていることが多く、自分の興味関心から自分ごととして学習に取り組めていないことが多いのではないかと考える。本学級の児童は、昨年矢賀ちしゃの植えを体験しているため、本時の学習では愛着のある矢賀ちしゃについて学習していくを通して、自分の興味関心を大事にしながらか主体的に学習に取り組む姿勢を養うことができるのではないかと考える。

○ 指導観について

本単元では、飯田氏の農業を通して生産者の生産や販売にかかわる仕事を追究していく。「であう」段階では、広島市内で生産されている野菜について学習することで基礎的な知識を身につけた上で飯田氏の野菜について触れ、その野菜を選んで購入している消費者についても知ることで、飯田氏の野菜生産について興味関心を持って学習に取り組む姿勢が持てるようにしたい。

「ふかめる」の段階では、「飯田さんが、消費者が買ってくれる野菜を作るためにどんな工夫をしているのだろうか」という視点から、飯田氏の野菜生産の流れや思いについて学習を進めていく。飯田氏の農園を訪ね実際にインタビューをすることによって、より直接的に生産者としての思いに触れ、また飯田氏の工夫によって生まれる野菜の魅力について考えを深めていけるようにする。矢賀ちしゃについての学習では、主に①生産過程②生産者の思い③消費者・流通先について学習していきたいと考えている。飯田氏の無農薬栽培の仕組みを学ぶことによって、①消費者に安心感を与えることができ、体にもよいという無農薬野菜の価値や、②消費者とのつながりを考え、質のよい野菜を届けるために手間のかかる栽培方法を選択した生産者としての思いなどに気付けるようにしたい。それにより、矢賀ちしゃを始めとした飯田氏の小規模農業についての学習を基に広島市という町で多く行われている農業へと視点を広げ、農家という生産の仕事についての理解を深めることができるのではないかと考える。

「いかす」の段階では、学習してきたことをまとめ、広島市の野菜作りという視点に戻した上で、広島市の野菜作りを紹介する方法を考える活動を行う。「生産者からの視点」「消費者からの視点」、広島市東区役所などの「支援する人からの視点」から紹介する立場を選択し、それぞれの立場から広島市の野菜を紹介するための活動を考えていく。ここで、調べたことや考えたことをまとめる力を養い、また地域に貢献する体験をすることができるようしていきたい。

5 単元の見目

- 地域には農作物の生産にかかわる仕事があり、自分たちの生活を支えていることや、これらの仕事みられる特色、地域とのかかわりなどを理解することができる。
- 地域の農家の仕事の様子から学習問題を見だし、見学・調査したり、資料を活用したりして具体的に調べたことを表や作品にまとめるとともに、農家の仕事と自分たちの生活とのつながりについて考えたことを適切に表現する。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 地域には農作物の生産に関する仕事があり、食の安全性や食文化の継承などを通して、自分たちの生活を支えていることを理解する。 ② 資料を活用して地域の農家の仕事について必要な情報を集め、調べたことを作品などにまとめている。	① 地域の農家の仕事について、学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。 ② 農産物の生産にかかわる人々の工夫や努力から生産活動に従事する人々の思いや願いを追及したり、自分たちの生活と関連づけたりして考え適切に表現している。	① 地域の農家の生産に関わる工夫や努力に関心を持ち、意欲的に学習課題を追求しようとしている。 ② 地域の農家の仕事と自分たちの生活とのかかわりを考えようとしている。

7 学習指導計画（全8時間 本時6/8）

過程	ねらい	主な学習活動と内容	■教師の働きかけ □評価 ☆資料
社会認識を育てる場 であう	○ 広島市の農産物の様子に関心を持ち、学習課題を考えることができる。	広島の野菜づくりをしらべていこう ① 広島市で作られている農作物を探し、作られている場所や量を調べ、気づいたことを話し合う。 ・ スーパーマーケットで広島産をみつけた。 ・ 地場産物のコーナーで地域の野菜を見つけた ・ 広島市では、こまつな・みずな・ほうれん草などの葉野菜が多く作られている。 ○ この野菜はだれがつくったのでしょうか ・ 去年、飯田さんから矢賀うりや矢賀ちしゃの育て方を教えてもらったね。	■ ひろしまそだち産品カレンダーや産地の写真などの資料を見たり、経験を話し合ったりすることで、広島市の農産物の傾向をつかむことができるようにする。 ☆ ひろしまそだち産品カレンダー・産地の写真・広島市の農産物生産量（資料を記述する。） ☆ 居酒屋で使われている飯田さんの野菜の写真
		多くの人に買ってもらえる野菜づくりにはどのような工夫があるのだろうか。	○ どうして飯田さんの野菜がお店で使われたり、買われたりするのだろうか。

ふかめる	○ 飯田さんの野菜のよさを、資料から考える。	② 多くの店で飯田さんの野菜が使われている理由を考える。また、朝市で多くの人買い求める理由を考える。	
飯田さんの野菜には、どのような魅力があるのでしょうか。			
○ 飯田さんの野菜作りについて調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飯田さんは、農薬を使わず野菜を作っているから買う人にとって安心な野菜になっているんだね。 ・ お店に売っている普通の野菜と違って一度に作る数が少ない分、一つひとつ丁寧に作ることができるね。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 朝市の様子や、野菜に貼られている「ひろしま育ち 特別栽培農産物のマーク」の写真 □ 思②：ワークシート ■ 手間がかかる無農薬で野菜を育てるための工夫に気付かせる。 ■ 声かけをし、見学してわからなかったことや新たな疑問は、直接尋ねることができるようにする。 	
飯田さんの野菜は、どのようにして育てられているのだろうか。			
○ 飯田さんの野菜作りの工夫についてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育て方 ・ 育てるための工夫 ・ 販売の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 見学カード □ 知①技②：ワークシート記述 ■ 手間がかかる無農薬で野菜を育てていることに気付かせる。 ☆ 栽培されている野菜のカレンダー 	
飯田さんの野菜作りをまとめよう。			
○ 矢賀ちしゃについて知り、矢賀ちしゃに込められた飯田さんの思いを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育て方 ・ 育てるための工夫 	<ul style="list-style-type: none"> □ 思①：ワークシート 関①：ワークシート、発言 ■ 安心安全、新鮮であることとは別の、伝統野菜としての矢賀ちしゃの価値や、伝統を守ろうとする飯田さんの思いに気付かせる。 	
飯田さんから見た矢賀ちしゃにはどのようなみりよくがあるのでしょうか。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統野菜ならではのおいしさがある。 ・ 作り続けた人の思いがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 文書資料「矢賀ちしゃの歴史」 ☆ 映像資料「飯田さんへのインタビュー」 □ 関②：ワークシート、発言 知①：ワークシート、発言 	

	<p>○ 伝統野菜である矢賀ちしゃの魅力について、「作る人」「買う人」「応援する人」の三つの視点から気付くことができる。</p>	<p>⑥ 伝統野菜である矢賀ちしゃの魅力について、「作る人」「買う人」「応援する人」の三つの視点から考え、自分の考えをまとめる。</p>	<p>■ 矢賀ちしゃのみりよくを考える活動を通して、野菜の持つ新しい価値や、矢賀ちしゃに関わっている人々の思いに気付くことができるようにする。</p>	
<p>矢賀ちしゃにはどのようなみりよくがあるのでしょうか。</p>				
<p>実践的な力を育てる場</p>	<p>○ 地域の野菜作りや伝統野菜について調べる。</p>	<p>⑦ これまでの学習をまとめ、魅力ある野菜作りについて考える。</p>	<p>□ 思②：ワークシート記述</p>	
	<p>買う人にとって魅力ある野菜を作るにはどのような工夫が必要かまとめよう。</p>			
	<p>○ 安心安全な野菜作りや伝統野菜づくりのよさを自分たちで伝えるための方法を考える。</p>	<p>⑧ これまで学習したことをまとめ、地域の野菜作りを紹介する方法を考える。</p>	<p>□ 知②ワークシート 思②ワークシート</p>	
<p>ひろしまの野菜作りを紹介する方法を考えよう。</p>				
	<p>・ 広島市の伝統野菜マップを作ろう。 ・ 飯田さんの野菜を紹介するポスターを作ろう。</p>	<p>□ 関②ワークシート，発言</p>		

8 本時の目標

矢賀ちしゃについて学習することを通して、矢賀ちしゃにこめられた生産者の思いや地域のつながりを作る伝統野菜の価値に気づくことができる。

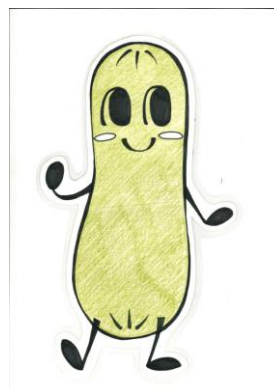
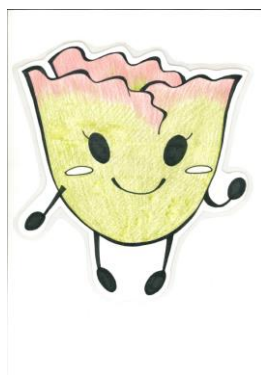
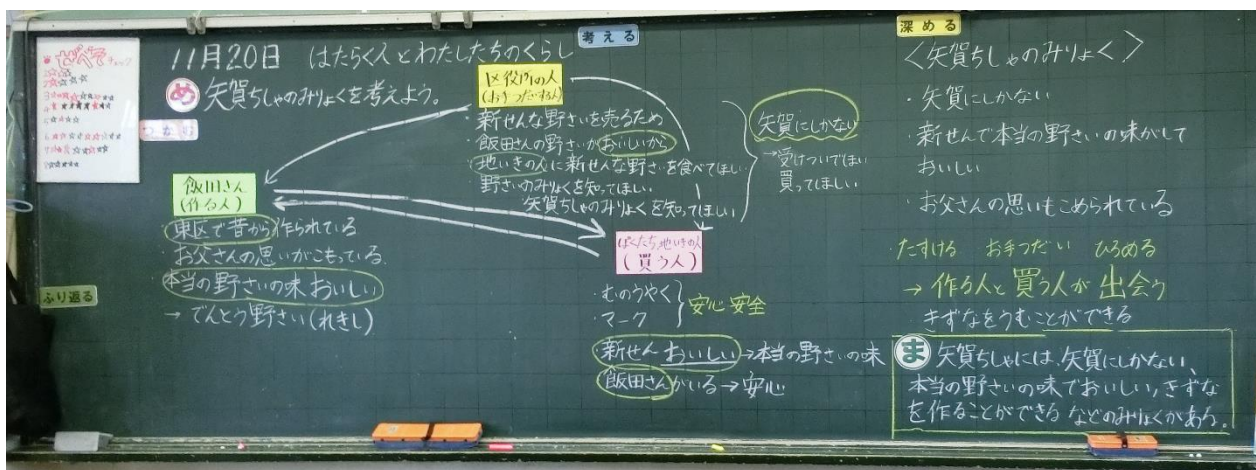
9 本時の学習展開（6/8時）

学 習 活 動	<input checked="" type="checkbox"/> 教師の働きかけ <input type="checkbox"/> 発問 <input checked="" type="checkbox"/> 準備物 <input type="checkbox"/> 評価
<p>1 前時で学習した「作る人から見た矢賀ちしゃの魅力」について振り返る。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<p>■ 作る人から見た矢賀ちしゃの魅力について、掲示物を参考にしながら想起することができるようにする。</p> <p>☆ 矢賀ちしゃの歴史・魅力（前時のまとめ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本当の野菜の味 ・ お父さんの野菜を守りたいという飯田さんの思いがこめられている。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">矢賀ちしゃのみりよくを考えよう。</div>	
<p>3 「買う人から見た矢賀ちしゃの魅力」を考える。</p> <p>4 矢賀ちしゃは、「作る人」「買う人」のほかに「応援する人」がいるということを知り、「応援する人から見た魅力」について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで話し合う。 ・ 全体で共有する。 <p>5 矢賀ちしゃの魅力を整理する。</p> <p>6 矢賀ちしゃのみりよくをまと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 矢賀ちしゃには、作る人以外にもかかわっている人がいる。 ■ 前時までの学習を振り返り、買い手から見た矢賀ちしゃの魅力を考えることができるようにする。 ○ 飯田さんの野菜にはどのような魅力がありましたか。 ○ 矢賀ちしゃのおいしさは、普通の野菜と何が違いましたか。 ☆ 前時までの学習掲示 <ul style="list-style-type: none"> ・ 安心安全、野菜本来の味のおいしさ、めずらしさ（伝統野菜としての価値） ■ 保育園での栽培体験や、木曜市に参加することで、買う人と作る人の間に関係が生まれ、人が出会うきっかけになることや、矢賀という地域を知ってもらえるということに気付くことができるようにする。 ○ なぜ区役所の人は、木曜出合い市や保育園・小学校での紹介活動を応援してくれているのでしょうか。 ☆ 木曜出合い市のポスター、小学校、保育園での写真 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の伝統野菜である矢賀ちしゃを知ってもらえるから。 ■ 一般的な野菜の生産の流れを提示し比較することで、人とのつながりを作るきっかけとなっている矢賀ちしゃの魅力を視覚的にとらえることができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統野菜ならではの美味しさがある ・ 人のつながりを作ることができる ・ 作り続けてきた人の思いがある ■ 板書を参考にしながら自分なりの矢賀ちしゃの魅力について考えることができるようにする。

<p>め、発表する。</p> <p>7 本時の学習のふり返りをし、次時の学習への見通しを持つ。</p>	<p>■ 矢賀ちしゃの魅力について個人で考えたことを板書にまとめ、様々な視点からの魅力が詰まった野菜であるということを確認できるようにする。</p> <p>□ 思②：ワークシート記述</p> <p>■ 広島市の他の伝統野菜について知り、同じようにたくさんの魅力を持った野菜を紹介するための活動をしていくことを確認できるようにする。</p>
---	---

10 参考文献

- ・ジーンバンク広島お宝野菜 2012
- ・広島市東区役所ふれあいまちづくり「木曜であい市」2015
- ・広島市「ひろしまそだち」2015
- ・公益財団法人 広島市農林水産振興センター「ひろしまそだち」「ひろしまそだち産品カレンダー」2012
- ・広島県「特別栽培農産物 安心広島ブランド」2019.3.14
- ・日本の農作物 販売促進サイトジャパクロップス 2019



矢賀の伝統野菜キャラクター
矢賀うりお(右)と矢賀ちしゃこ(左)